



第145期救急科を実施しました

[期間] 令和3年10月4日（月）から11月22日（月）まで
35日間

[会場] 埼玉県消防学校
埼玉医科大学総合医療センター
所属消防本部

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 27消防本部（局）96名

川口市消防局 須賀 浩之 消防士長 * 第1小隊総代

修了しての感想

コロナ禍の中、救急科を実施していただき、ありがとうございました。また、不安がある中で送り出してくれた家族にも感謝しています。

教育訓練が始まると、講義では、わからないことだらけ、実技でも、わからないことだらけ。そんな自分の救急の知識・技術の無さに不安を感じましたが、今救急科を終え、「本当に行ってよかった！」が正直な気持ちです。消防官として必要なことがこの教育訓練にあります。

人間は忘れる生き物なので、学んだことを繰り返し復習し、新たな知識・技術を身に付けたいと思います。



後輩へのメッセージ

何より、たくさん失敗して、たくさん学んでほしいと思います。失敗したことをわかりやすく指導してくれる教官がいます。仲間が助けてくれます。そして、できるようになると物凄く評価してくれます。

成長させてくれる、この2か月に満たない教育訓練で、どれだけのことを得られるかは自分次第です。是非1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

吉川松伏消防組合消防本部 橋本 知之 消防司令補 * 第2小隊総代

修了しての感想

コロナ禍で第145期救急科がスタートし、約2か月間の研修期間に1人の感染者を出すことなく、96名の学生無事修了できたことに感謝致します。総代として、仲間との時間を大切にしようと考えていましたが、96名と関わる時間は短く難しいものでした。

教官の皆さんには、座学と実技を楽しく学べるように工夫していただき、難しい救急も自然と楽しくなり、もっと学びたいと思うようになりました。これからも傷病者第一の活動ができるよう、自己研鑽に励みたいと思います。



後輩へのメッセージ

救急科で出逢えた仲間との時間を大切にしてください。

そして、救急に興味を持ってください。傷病者がなぜこのような痛みを訴えているのか、答えは一つではないかもしれませんが、救急科を通じ、救急は奥が深いと感じま

した。わからないことや疑問があたったら、どんどん質問して不安を解決していきましょう。

熊谷市消防本部 前原 一貴 消防副士長 * 第1小隊副総代

修了しての感想

第145期救急科を修了し、救急の基礎を一から学ぶことができました。今まで救急という分野に対して難しいというイメージが強く、取り付きにくいと思っていました。しかし、基礎知識が付いた今、学んだことを傷病者のために現場で還元していきたいという気持ちが強くなりました。

また、消防学校と埼玉医科大学総合医療センターでの座学や実技を通じて、仲間とかけがえのない絆を作ることができました。

この救急科で学んだことを糧に「呼んでよかった」と思ってもらえる救急隊員を目指していきます。



後輩へのメッセージ

救急科では、新しい知識はもちろん、今まで曖昧にぼんやりとしていたことがはっきりした知識になる瞬間をいくつも経験しました。その点と点が繋がり線となる瞬間を楽しんで自分の武器にしてください。できなかったこと、わからないことはそのままにせず、その日のうちに解決するのがいいと思います。

最後に、救急科の講師、教官は皆さん熱意のある方ばかりです。その熱意に応えられるよう、全力で知識・技術を吸収し、実りある救急科にしてください。

春日部市消防本部 大畑 祐貴 消防士長 * 第2小隊副総代

修了しての感想

学生96名が誰一人欠けることなく、研修を修了することができました。これも佐藤教官、目黒講師をはじめ、学校関係者、支援教官、埼玉医科大学総合医療センター等、第145期救急科に携わっていただいた全ての方々のおかげです。ありがとうございました。

救急科を修了して、私たちはようやく救急隊員としてスタートする準備が整いました。救命の連鎖の一翼を担う救急隊員としての自覚を持ち、一人でも多くの傷病者の



社会復帰に貢献するため今後も自己研鑽に励みたいと思います。

後輩へのメッセージ

救急科には、救急の知識・技術を学ぶ上で最高の環境が用意されています。質の高い研修となっているので、講義の中では専門用語が飛び交い、理解に苦慮する場面も多くあります。そんな時もあきらめずに喰らいついてください。わからない言葉は調べてください。自ら学ぶ姿勢を持つことで、得られる知識は劇的に変わります。2か月弱しかない救急科を有意義なものとするため、救急に没頭する準備をして入校してください。



入校式



座学（消防学校）



実技訓練（産科救急）



実技訓練（効果測定）



座学（埼玉医大）



ドクターヘリ見学（埼玉医大）